

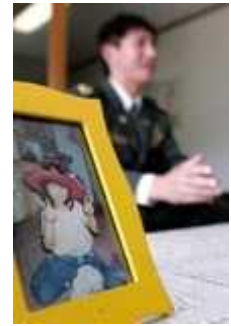
## 広島女子殺害1年で父「あの朝の寝顔忘れぬ」

11/10 17:23 [この記事についてのブログ\(5\)](#)

[この記事について](#)

[友だちに教える](#)

[ブログを書く](#)



広島市安芸区の小学1年、木下あいりちゃん = 当時(7) = 殺害事件から  
今月22日で丸1年を迎えるのを前に、父親の自衛官、木下建一さん(39)  
が産経新聞の取材に応じた。事件の悪質さを訴えるため、殺された幼い娘  
が、ペルー人被告から性的被害を受けたことをあえて公表した木下さん。奈良・  
奈良・女子誘拐殺人事件でも判決を前に遺族が殺害された長女の名前と写真  
を公にしたことに触れ、「私の気持ちが少なくとも奈良の遺族には伝わった感じで、ほっとした」  
と話す。

木下さんの脳裏には、事件当日の朝、自宅で一緒にふとんにもぐりこんでいたあいりちゃん  
の愛くるしい寝顔が焼きついている。「寝相が悪く、朝になればいつもどこにいったか分からな  
い」というあいりちゃんだったが、その日は、目覚めた木下さんのすぐ目の前に寝顔を向けてい  
た。思わず、娘のほっぺたを優しくつねった。

そのあいりちゃんは、今年5月に納骨され、木下さんの故郷である熊本県内の寺でねむる。  
木下さんは「この1年は早かった。1周忌を迎えた墓前でもやはり、謝ってしまうでしょう」と声を  
詰まらせた。

木下さんは、1審判決を前に、実名での報道や被害実態を正確に伝えるようにマスコミ各社  
に申し入れ、匿名化の流れにある犯罪報道に一石を投じた。

公表にあたっては、妻(35)とけんかになったこともあったという。だが、「本当に悪いのは犯  
人。あいりは性的暴行を受けて殺された。事件がそれだけ悪質だということを訴えていかなけ  
れば、周囲にも分かってもらえない」。今でも間違いではなかったと思っている。

公表後、自身も性犯罪の被害を受けた女性から「自殺を考えたが、思いとどまり、立ち直るき  
っかけになった」という内容の手紙を受け取るなど、全国の犯罪被害者や支援者などから反響  
が寄せられた。

死刑判決が確定した奈良の誘拐殺人事件でも、9月の判決前に遺族から長女の名前と写真  
が公にされた。木下さんは「親からすれば、あいりは単なる小学1年生ではなく、きちんとした名  
前がある。私の気持ちが少なくとも奈良の遺族には伝わった感じで、ほっとした」と話す。

1審は無期判決、量刑基準に疑問

あいりちゃん殺害事件の1審では、ペルー人被告に対し、無期懲役の判決が言い渡された。

木下さんは裁判で、ペルーでの前科が立証されなかったことをあげ、「控訴審では、検察側にペルーでの犯罪の立証に尽くしてもらいたい」と述べる。その一方で「(被害者が1人の殺人事件で)前科がなければ死刑にできない、という理屈には矛盾を感じる」と、これまでの量刑基準に遺族として疑問を投げかけた。

「1審判決から、抜け殻のような日々が続いたが、1周忌を前に何もしてこなかったという思いがあった。これ以上被害者を出さないために私の経験が役立つならば、事件を風化させないように訴えていく。それが私の使命です」。そう語る。

#### 【用語解説】広島市の木下あいりちゃん殺害事件

広島市安芸区の空き地で平成17年11月22日午後、下校途中に行方不明になっていた小学1年、木下あいりちゃん = 当時(7) = の遺体が発見され、県警が殺人と死体遺棄の疑いで、通学路沿いに住むペルー人、ホセ・マヌエル・トレス・ヤギ被告(34)を逮捕。検察側は死刑を求刑したが、地裁は7月4日、「被害者が1人で、死刑をもって臨むには疑念が残る」として、無期懲役を言い渡した。検察、弁護側双方が控訴している。

 産経新聞